

六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.96
六甲山と外国人墓地
／坂田 正史
2011年3月発行



外国人墓地 小野浜地区

第96回テーマ： 六甲山と外国人墓地

講演内容

- 兵庫開港と外国人墓地のはじまり
- ラムネのシムさんと
六甲山緑化の経緯
- 六甲山レクリエーションと
居留外国人



講師：坂田 正史さん
(プロフィール)

1952(昭27)年生まれ、57歳、鳥取県出身。昭和55年千葉大学園芸学部造園学科卒、神戸市役所入所、以来都市公園の整備と管理に従事。平成20年から、神戸市森林整備事務所勤務。

実施日：平成23年3月19日(土)
午後1時～3時40分
場所：六甲山地域福祉センター

六甲山上の春はまだ兆し

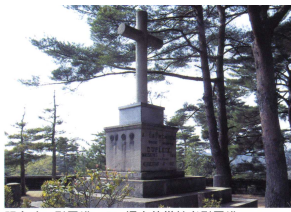
午前10時前に環境整備ボランティア8名がガイドハウスに集合しました。前月に続いて近畿自然歩道と二つ池環境学習林の樹木の新芽などの芽生えの様子を観察しました。天候は晴れで気温は8℃と温かでしたが、日陰には積雪が残り表土が凍った所もありました。樹木の花芽はまだ硬く、二つ池はシャーベット状の氷に覆われていました。1ヶ月後に、アセビの花や春植物が芽生えるのを期待しました。

綿密なガイドブックづくりを進められた

昨年4月に、再度公園の森林整備事務所に副所長の坂田 正史さんをお訪ねして、神戸市の「出前トーク」で外国人墓地の講演をお願いしました。

1年近くも経ちましたが、「一般公開で案内するような順序でお話したい」と、沢山のスライドを駆使して臨場感のこもった説明をされました。墓の主の史実を現場まで足を運んで検証されたことに、参加者が感銘を受けました。フランス兵を殺害して切腹を命じられた土佐藩士の話は圧巻でした。また、居留地外国人が設立した会社や学校からも資料をされ、歴史秘話を紹介していただきました。

今回の講演をきっかけにして、外国人墓地のガイドブックを整備され、「出前トーク」の枠を拡げられたようです。



記念碑・慰霊塔 11. 爆事件犠牲者慰霊塔



外国人墓地

躍動の明治時代にタイムトラベルした

講演の冒頭は外国人墓地の成り立ちについての説明です。日米修好通商条約の一環で、山手を好む外国人には不適な、

居留地東の低湿地に小野浜墓地が設けられました。さらに春日野墓地が設けられ、昭和36年に一里山(再度山)に移転が完了しました。墓標は2700あります。

続いて産業の近代化に貢献した居留地外国人が紹介されました。造船業のハンターさん、製紙業のウォルシュさん、神戸港を近代化したマーシャルさんとマルーマンさん。生活文化に影響を与えた人として、ラムネで有名なシムさん、女性宣教師のタルカットさん、パン洋菓子のフロインドリブさん、建築家のハンセルさんなど列挙にいとまがないほどです。

後半は六甲山の緑化を踏まえて、六甲山を開発したグルームさん、外国人の六甲山登山を紹介されました。

外国人の創業の志に学びたい

神戸外国人墓地の存在や居留外国人の活躍ぶりを知って近代日本の歴史に親しめた。小学生にも学ばせたいし、多くの人が墓地を見学して外国人の貢献を偲びたい。坂田さんに素晴らしい「出前トーク」をしていただきました。神戸市のこのような施策にも深謝します。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 古本美千子さん

以前から外国人墓地の所在は知っていたが、神戸に住み近代社会や産業の発展に功績のあった人々が埋葬されているのを学んだ。アメリカ、フランス、イギリス、ロシアの人たちが葬られている。我々のなじみのモロゾフ、ラムネ、薬、石鹸、パン等を広め、関西学院、三菱製紙等他、学問や産業の礎を築いた人のお墓など興味をおぼえた。

そんな中、無縁墓が多いと知り複雑な思いがした。公開日時にそって偉業をしのびながら墓参りたい。



【助成金をいただいている機関】

セブンイレブン記念財団、大阪コミュニティファンド(東洋ゴムグループ環境保護基金)、子どもゆめ基金、コベルコ自然環境保全基金、コープこうべ環境保護基金

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会